

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2991000130		
法人名	社会福祉法人 はる陽の郷		
事業所名	グループホーム かしの木		
所在地	奈良県香芝市良福寺 37-3		
自己評価作成日	令和6年2月15日	評価結果市町村受理日	令和6年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カリア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘四丁目4番33号
訪問調査日	令和6年2月28日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念でもある、「ご利用者様の想いを汲み取り、行きたいと思うところに行き、やりたいと思うことを一緒にできる様努めます。」の通り、ご利用者様の今の想いや一日一日を一緒に笑顔で過ごす事を大切にしております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

二上山の麓にある事業所は、玄関前に田園風景が広がり、とてもどこかで四季を感じることができる環境にあります。建物内はリビングの天井が高くとても開放的で、日の光も差し込み温かみのある雰囲気になっています。サービス提供にあたっては各職員が利用者のプライバシーの保護や人格の尊重を意識するよう、ジャッジマンと呼ぶスタッフが、日替わりで言葉遣いなど利用者への対応について啓発活動を行い、事業所全体で利用者が心地よく安心して過ごせるよう取り組んでいます。利用者の思いを汲み取り、利用者に寄り添いながらその人らしく生活が送れるよう支援しています。医療面についても、かかりつけ医の先生が24時間体制で緊急時の対応があり、安心して生活が送れる体制になっています。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内(事務所内)の扉に理念を掲げ、理念に基づいたケアができるように心がけている。	理念を事業所内に掲示し、各職員が出勤時にその理念を唱和しています。また理念に沿った勉強会や研修に取り組み、理念の共有実践につなげています。	地域密着型サービスとしての援助方針を盛り込んだ理念を作り上げ、又その理念を利用者、家族及び地域の方にも認識してもらえるように玄関等の見えやすい場所に掲示してはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の秋祭りや菜園のお手伝いをしていただいている、地域の方々とのつながりを深められるようにしている。	自治会への加入もあり、広報紙が回覧板で回ってきます。地域の秋祭りでだんじりが事業所の前にとまるので見学をしたり、事業所内では菜園の水やりなどで地域の方が出入りするなど、地域との交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症サポーター養成講座で、地域の方々へ発信できるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や研修等の報告をさせていただき、ご意見を活かしていけるよう心がけている。	2ヶ月に1回の運営推進会議では、市職員(包括職員)、民生委員、歯科医師(協力医療機関)、家族代表等の参加があり、事業活動状況等の報告や意見交換を行うことでサービス向上に生かせるよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあれば連絡また随時質問もさせていただいたり、積極的に状況等も伝えながら、協力関係を築くよう努めている。	市にGH担当の職員がおり、随時相談できる関係が築けています。また、4ヶ月に1回のGH連絡会にも市の担当職員の参加があり、情報共有や相談できる協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修や、職員間でスピーチロックのジャッジ等も行うことで、予防に努めている。	利用者の安全確保の為に施錠やセンサーマット等の使用はしていますが、利用者の行動や状態に合わせ対応しています。また身体拘束に関する研修や会議をとおり、職員全員が認識を持った上でケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行い、不適切ケアが行われないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い、理解を深められるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明等を行い、ご家族様の不安や疑問点を尋ねている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の要望は、面会や電話連絡の際に聞き取り、ご利用者様の要望は、生活の中で聞き取りを行っている。その情報については、申し送りノートや計画書で共有している。	利用者の声には常に耳を傾け、利用者家族に対しても面会時や電話連絡時に話をし、何でも話せる関係づくりをしています。出された意見や要望は職員間で検討し、ケアの実践に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年一回個人面談の機会を持ち、意見や提案を聞いて反映できるように努めている。	管理者は日常的に職員に声をかけ、要望やケアに対する意見等を聞き取るようにしています。年1回個別面談も実施し、業務の見直し、行事や物品購入等の意見や提案について聞く機会があり、その意見や提案を運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当等もあり、現在は、施設内研修のみとなっているが、コロナ以前は、施設外研修にも参加していた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修で、認知症に関する研修や、虐待・身体拘束等の研修を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍より同業者との交流は、取り組めていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前には、ご利用者様との面談時に心配事や不安等についてお聞きし、ご入居後のかかわり方を職員に周知している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前の事前面談時で、ご家族様からも心配事等をお聞きし、職員に周知している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご見学の際に、ご本人様とご家族様に色々聞かせていただき、今必要としておられる支援のサービス内容の説明や紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や菜園等を一緒に行うことや、生活暮らしの知識等をご利用者様に聞き、暮らしの関係性を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染症対策を取っていただきながら、出来る範囲内で、ご家族様と外出・外食をさせていただいている。また、遠方のご家族様もInstagramでご利用者様や施設の様子を投稿している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話で、馴染みの方との関係が継続できるような支援している。	家族や友人の来園やその方たちとの電話のやり取りを通して、馴染みの方との関わりを支援しています。家族のサポートで馴染みの美容室や外食にも出かけ、関係継続の支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係を把握し、席に配慮している。また、レクリエーションの中で関わりを持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、ご家族様が不安なく過ごせるように相談援助に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、想いや希望を汲み取りその実現に向けて検討している。	日頃から利用者1人1人との関わりを大切にし、普段の会話の中から思いや意向の把握に努め、家族とも相談し、その人らしく生活が送れるよう支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様・担当ケアマネ様から情報収集し、聞いたことをプランに反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定や、ご利用者様の表情等で把握し、日常生活の様子を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員と計画作成担当者がモニタリングを行い、ご利用者様・ご家族様の意見を反映している。	各職員が利用者ごとの担当を持ち、思いや意向の把握に努めています。それを基に担当者会議で意見交換を行い、また事前に各ユニットのリーダーが家族にも意見を聞き、6か月に1度の介護計画の見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の日々のご様子を記録に残し、検討事項や今後の関わり方に変更がある場合は、申し送り時やノートに記載し情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り、その時間かれた要望や意見に対しては、希望が叶うように柔軟な対応ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍前は、各催し物や展示会等に、参加できる物への参加を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様やご家族様が希望するかかりつけ医の受診継続や施設の往診医との連絡等を行っている。また、協力医以外の受診は、ご家族様が行われるかどうか確認している。また、ご利用者様の状態等を記した手紙を毎月ご家族様に発行している。	希望するかかりつけ医の継続も可能です。又、ホームの協力医療機関もあり常に連絡を取ることができ、24時間体制で緊急時にも対応を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置や訪問看護師の活用は行っていない。協力医療機関医師とは、24時間連絡がとれ、相談できる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、病院関係者と必要な情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	申込時に重度化した場合や終末期ケアを行っていないことをお伝えしている。	現在は、終末期のケアは行っていないですが、協力医療機関を通じて、療養型の医療施設や特別養護老人ホームなどと連携を図るようにしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応研修を適宜行い、職員への周知徹底を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練をご利用者様参加で行っている。消火訓練や通報訓練も行っている。	年に2回の防災訓練を利用者参加で行っており、実際に通報訓練も実施しています。又、備蓄品などは同法人である隣のケアハウスと一緒に用意しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー尊重の研修を実施し、職員の意識向上に努めている。	プライバシーを守り、人格を尊重した対応を心がけています。研修も実施し、又ホーム独自でジャッジマンと呼ぶスタッフが、日替わりで言葉遣いなど利用者への対応について啓発活動を行い、事業所全体で人格の尊重に取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が自分の想いを表現しやすい環境作りに努め、会話の中で、想いを汲み取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の意見を尊重し、無理のない生活ペースで支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問美容やスキンケア等行えるように声掛けをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園でとれた野菜の下準備や、食後の後片付けを行っていただき、おやつやお寿司等も、職員と一緒に作っていただき、食事を楽しめるように努めている。	コロナウイルスの影響でレトルトを利用することもあります。出来る限り手作りを心がけており、職員も同じ食事をしています。又おやつ作りや外食店の出張サービス、行事食など楽しみが持てるよう食事を提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量・水分量はその都度記録に残し、健康状態を図っている。食事形態は医師と連携を図り、ご利用者様個人に合わせた食事形態にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け誘導し、口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。また、口腔状態について観察し、歯科受診の必要があれば行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行いながら、排泄間隔の把握を行い、誘導が必要な場合でも自尊心を傷つけないようなタイミングや声掛けに配慮している。基本は、トイレでの排泄としている。	利用者の排泄間隔を把握し、又それぞれの様子を見ながら自尊心に配慮を行い、全員がトイレで排泄ができるように支援しています。その他、運動を取り入れたり、食事などを工夫することで自然排便を促しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔を記録し、排便コントロールを行っている。なるべく自然排便を心掛け、ご利用者様にあったタイミングで、牛乳やヨーグルトを食べていただき、適度な運動も勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、ご利用者様の気分や状態を見て日や時間を変更している。	現在、週に2~3回の入浴を実施しています。利用者が入浴したいと思うタイミングに合わせて入浴日の変更も行っています。またゆず湯や入浴剤などの使用、また入浴前には衣類を一緒に準備するなど入浴を楽しむ支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はあるものの、ご利用者様のその時の状況でアロマやラジオを使用し、夜間ゆっくり休んでいただけるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は、ファイルで保管しており、職員がいつでも確認できるようにしている。変更があれば、申し送りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で役割が持て、楽しみができるように、家事活動や朝の日付書き等、趣味を生かしていただいている。また、気分転換には、外出や散歩などその方々にその時にあった支援ができるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	登山によく行かれていた方とは、施設近くに二上山があるので、職員と一緒に登られました。ご本人の希望をひとりひとり把握しながら、出掛けられるようにこれからも努めていきたい。	ホームの周りのはのどかで、毎日散歩を実施しています。近くにスーパーもあり買い物に出かけることもあります。又、小学校がすぐ隣にあり、子ども達が育てた花をプランターで頂くことがあり、水やりをしたり、ホーム内の菜園では野菜を植え、収穫を楽しんでいます。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様やご家族様の希望があれば、少額お持ちいただいている時がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や、相手先の方からの許可を得たうえで、電話の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調整・カーテンで光を調整している。壁の掲示物で季節を感じられるようにしている。	ユニットの中央に広いリビングがあり、心地よく調理の音や香りがします。窓からはホームの菜園を眺めることが出来、どちらのユニットへも制限なく行動ができます。玄関に置かれたソファからは二上山や田園風景などを眺めることができ、季節を感じながら過ごすことができます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外に一人になれる空間はないが、玄関にソファがあるので、一人になれる空間でもあり、ご利用者様同士そのソファでコーヒーを飲みながらフロアとは違った雰囲気です。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時に、なじみの物があると安心に繋がることをご説明し、もっていただけるようお願いしている。	全室に窓があり、明るい居室になっています。備え付けの家具以外に、馴染みの物や趣味の道具などを持ってこられたりと、利用者それぞれが落ち着く部屋作りを考えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に配慮し、ご利用者様の能力を把握して個々に合った支援を行っている。		